月をめざして

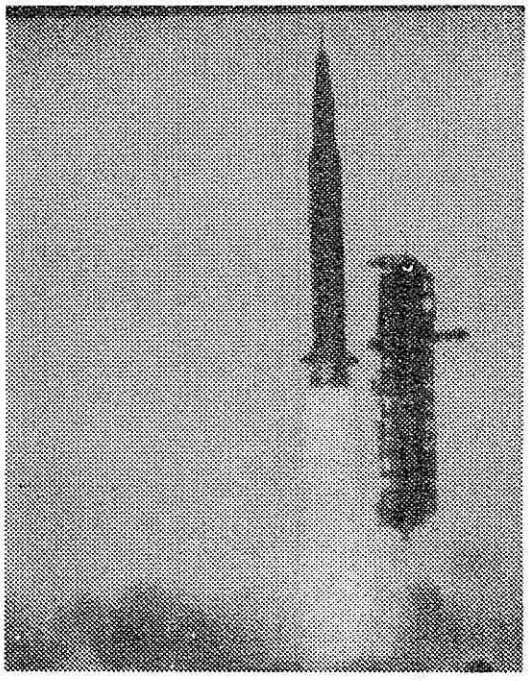
月をめざして

1969年７月21日、アメリカのアポロ11号によってはじめて人が月に降りたち、第一歩をしるしました。その様子は月面からの生中継によって世界中に放送され、茶の間にいながらにして見ることができました。その時小学生だった私も真夜中の放送を徹夜で見てたいへん興奮した覚えがあります。アポロ計画は1961年の当時のケネディ大統領の”アメリカは1960年代の終りまでに人間を月に送りこむ”という有名な言葉からはじまりました。そのためにまず、マーキュリー宇宙船によって人間を地球をまわる軌道に乗せることに成功しました。つぎに２人乗りのジェミニ宇宙船が打ちあげられて、宇宙服をきた人間が宇宙船の外に出て活動する宇宙遊泳や、別々の宇宙船が出会うランデブー、あるいは合体するドッキングなどの宇宙旅行に必要な技術を得ました。

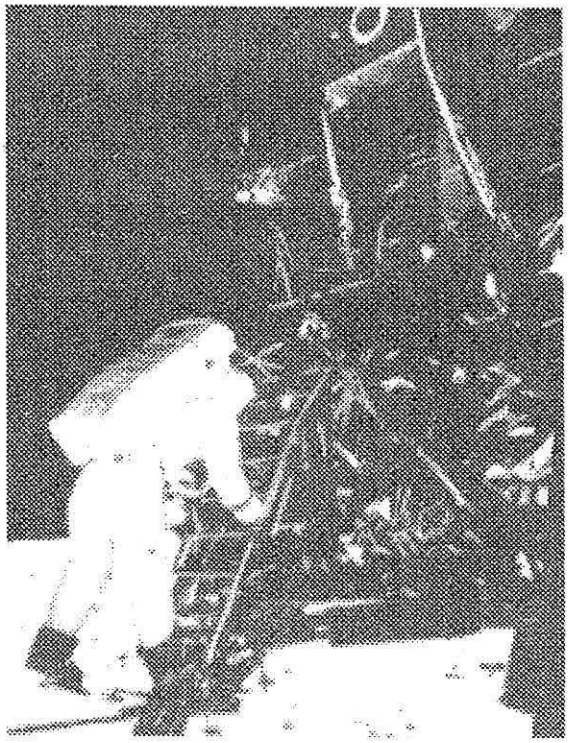
アポロ宇宙船

このような計画にのっとりアポロ宇宙船が作られました。これは３人乗りで人が乗る司令船と、ロケットエンジンや色々な機械のつまった機械船、実際に月に着陸する着陸船の３つの部分からなっていました。

１号から６号までは地上で実験用に使われましたが、１号では実験中に火災をおこし３人の宇宙飛行士が死亡するといういたましい事故もありました。７号から10号まで実際に飛行士を乗せて打ち上げられました。特に８号では、初めて月に向かい、そのまわりをまわって無事に戻ってきました。そしてついに、11号でアームストロング、オルドリン



アポロ１１号の打上げ



月へ降立つ

の２人の宇宙飛行士が人間としてはじめて月に降りたちました。

11号の後、1973年の17号まで７回打ち上げられましたが、酸素タンクの爆発という事故を起こした13号以外、あわせて６回月に降りたちました。その間、月面車などを使い月の石を持ち帰ったり、たくさんの科学調査を行って成果を上げました。特に、そのときに月面に置かれたレーザー反射板によって、月と地球の正確な距離がはかられるようになり、月が年に４cmずつ地球から遠ざかっていることがわかってきました。

その後、わずか数人の人を月に送りこむのに多くのお金がかかるなどの理由もあって、宇宙開発の主力はスペースシャトルに移り、その後20年あまり、月に人は降りたっていません。

再び月へ

しかし、地球に１番近い天体である月をもっとくわしく調べたり、天体観測に利用したり、あるいは火星探査などの新しい宇宙開発の基地としてふたたび月へ目が向けられるようになりました。21世紀になれば、月の探査が行われるようになり、やがて月面基地や月面都市ができるでしょう。そうなれば、簡単に月に行けるようになり、ちょっと月へ観光旅行といったことも夢はでなくなるでしょう。早くそのようになればいいですね。

（布村克志）

富山市科学文化センター
〒939　富山市西中野町１－８－３１
TEL　（０７６４）　９１－２１２３
平成４年６月１０日発行